

# 第1 ビジョン策定の趣旨

## ① 策定の趣旨

現在、我が国は急速な少子高齢化やグローバル化の進展を背景とした労働力人口の減少、社会保障費の増大、産業の空洞化などの社会・経済問題を抱えるとともに、地域経済活性化に不可欠な地域主権型社会の実現や通商及び貿易に関する国際的な連携の機運の高まりといった社会・経済システムの転換期を迎えている。

こうした時代を京都が乗り越えるためには、本市が持つ独自のポテンシャル（潜在能力）を生かした産業の活性化と持続性のある発展を目指していくことが不可欠である。

このビジョンは、中期的な視点に立った戦略的な産業振興施策を行うことにより、京都における企業及び従業者の利益の拡大、雇用の場の確保、市民サービスの向上を支える税収の増加といった経済活性化のための好循環を生み出し、市民の豊かな生活と社会を支える経済基盤の確立を目指すものである。

## ② 位置付け

本ビジョンは、「京都市基本計画」の分野別計画として位置付け、製造業をはじめ、ものづくり機能に関連のある産業（情報関連産業、コンテンツ<sup>※</sup>産業、知識関連サービス産業等）を含む分野を対象に、振興の方向性と重点戦略等を示したものである。

なお、本市は平成13年度に産業政策の基本指針としての「京都市スーパーテクノロジー構想」を策定し、これまでに様々な施策を展開してきた。

ビジョンは、これらの取組を継承・発展させるとともに、農商工連携や観光振興など各分野における政策と融合を図るものである。

## ③ 計画期間

ビジョンの計画期間は、平成23年度から平成27年度までの5箇年とする。

---

※コンテンツ

映画、音楽、演劇、文芸、写真、マンガ、アニメーション、コンピューターゲームその他の文字、図形、色彩、音声、動作、映像若しくはこれらを組み合わせたもの又はこれらに係る情報のことをいう。

## (政策体系)

産業観光行政においては、京都市基本計画に基づき、ものづくり、商業、伝統産業、観光、農林業を支援対象にした分野別計画を策定している。

### 京都市基本構想（グランドビジョン）

〈H13年～H37年〉

21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す  
長期構想

### 京都市基本計画（はばたけ未来へ！京プラン）

〈H23年度～H32年度〉

基本構想の具体化のために全市的観点から取り組む  
主要な政策を示す計画

### 各区基本計画

〈H23年度～H32年度〉

基本構想に基づく各区の個性を生かした魅力ある  
地域づくりの指針となる計画



### 京都市新価値創造ビジョン

〈H23年度～H27年度〉

「新価値創造都市・京都」の実現に向け、  
ものづくりの視点から本市が重点的に推進  
する産業振興政策の基本的な考え方を示し  
たビジョン

### 未来・京都観光振興計画2010<sup>+5</sup>

〈H22年～H26年〉

「5000万人観光都市」を実現した京都観光が、  
新たに目指す姿とそれを実現するための戦略  
や施策を明らかにする、京都観光を支えるみ  
んなの羅針盤となる計画

融合

### 京都市農林基本行政方針

〈H22年度～H31年度〉

今後10年間の本市の農林業が進むべき方向  
を示す計画

### 京都市商業活性化アクションプラン2011

〈H23年度～H27年度〉

本市における商業の姿、商業振興の方向性、取り組む  
べき商業振興策を盛り込んだアクションプラン

### 京都市伝統産業活性化推進計画

〈H18年度～H23年度〉

「京都市伝統産業活性化推進条例」を具体化  
するものとして、概ね5年間の目標と40の具  
体的な取組を盛り込んだ計画